

てあとるみのりを、 まちの自慢に!

—てあとるみのり

毎週末曜日、地域活動支援センターの活動室は劇団の稽古場になる。
台本を片手に、利用者も職員もそれ以外の人もみな、気持ちを合わせ、舞台稽古に励む。
稽古中の「てあとるみのり」を訪ね、すきたよしお 榎田佳生さんにお話をうかがった。

写真提供/てあとるみのり

——「てあとるみのり」の活動を始めたきっかけを教えてください。

以前、勤めていた精神科のクリニックのデイケアで、リハビリの 일환として演劇のプログラムを運営しました。私自身、演劇の経験があり、それを生かしたのです。演劇は、役になっている間は普段とは違う自分になれる、そこがおもしろいと考えていました。デイケアに通うみなさんは、病気や障がいのために物事をあきらめてしまいがちだと感じ、演劇をやることでそうした意識から解放されて変身してほしいという気持ちがありました。実際に、演劇に取り組み始めてみると、役への変身だけではなくて、「自分は劇団員なんだ」という役の外側にある枠の中で変身をするようになったのです。

その後、ハートランドみりの職員になるのですが、しばらくすると、障害者自立支援法ができて、事業所のかたちが変わりました。作業中心の活動から、趣味や余暇活動を通して、前向きに生きる楽しさを持つる活動をしようと方向転換したのです。その一つの柱が演劇でした。2008年から始め、現在ではハートランドみりに通う方24名のうち、10名程が役者、声の出演者、裏方と

して演劇の活動に参加しています。

——みなさんとの演劇は、どんなふうにつくっていったのですか。

演劇経験のない方ばかりで、どうやっていけばいいのか、手探り状態で練習をしていたある時、噂を聞いた関係団体から公演の依頼が来たのです。「まあどこかでやらないと始まらないから、やっちゃおうか」と(笑)。2カ月ほど練習をして30分くらいのものをやりました。みんなガチガチで大変でしたよ(笑)。

ですが、とにかく舞台上に立つ経験を経ると、明らかに練習で読み合わせをしていた時から変化があるんです。舞台に出てお客さんの前で演じて、拍手をもらったりほめられたりすると、みなさんの心に変化が生じます。演劇はお客さんの反応がその場で返ってくるところに真実味があり、心に感触が残るのです。なので、公演をやる毎にみなさんが成長していく。練習の時にいくら言っても通じなかったものが、1回本番をやつて、経験を振り返ってもらうと、次からそれが生かされるのです。

——舞台に出るとモチベーションが高まるんですね。普段はどういう練

*文末の「てあとるみのり」囲み欄を参照



2012年9月の第8回公演「Mission」から。東京・豊島区のハートランドみでのりで全7ステージが行われ、連日満員となった。福祉事業所の活動室とは思えない、本格的な舞台装置にも注目。

習をされているのですか。

発声練習や筋トレ、台詞の暗記は、敬遠されると思ったので、早口言葉をゲーム感覚で楽しめるような短い脚本を作り、発声練習の代わりにしたりしています。全員ど素人からのスタートでしたが、回を重ねて経験値が高まっている方もいれば、新しい方もいて、幅ができてきました。今は私が言わなくても、経験者が教えたり、まわりの人の行動を参考にするなど自然と伝わることも多くなりました。

1回の公演には大体4〜5カ月くらいかけて練習します。公演が終わると1カ月くらい休みがあって、その間に振り返りをしたり、次の脚本の準備をします。脚本がきたら週1回、練習しています。参加者が増えてシナリオも長くなり、今では2時間くらいの物語です。全体として合わせなきゃいけないシーンも多く、ただ練習をすればいいというものではなくなってきました。でも、経験値が高い人たちによって、大分カバーできるようになっています。「ここでこう言ったら面白いんじゃないの?」と提案してくれることもあって、学校の部活みたいな感じですよ(笑)。

——脚本は梶田さんが書いていらっしゃるようですが、大切にされていることはありますか。

まず、演じる人の特徴が生きて、やりやすそうな役と台詞の量を用意して、経験してもらいます。舞台の経験をしてからは、台詞の数や長さについて希望を聞いたり、徐々に難しい要求をしたり……というふうにやっています。

——テーマは、現実的なものを扱うようにしています。特に私が心掛けているのは、「人間」を描くこと。突飛な世界を描いて、現実から離れ過ぎてしまわないようにしています。

——デイケアに勤めていた頃、通っているみなさんの様子を見たり話をしていると、共感する部分が多くありました。ありきたりかもしれませんが、そういうところをテーマとして扱うと、役を通して共感したり自分の代弁ができる、といった感覚をみなさんが抱くのではと考えたのです。

——公演の反響はいかがですか。

主に事業所に通うみなさんの知り合いや家族、お世話になっている保健師さんなどが観に来てくれます。



仕込み風景。役者を含めた参加者全員が力を合わせて舞台装置を作る。

「テーマが深くて考えさせられた」「こんなに本格的だとは思わなかった」「○さんの演技がおもしろかった」など、いろいろコメントをいただいています。中には「前の方が良かった」とか（笑）、そういう厳しい指摘も嬉しいお言葉です。

——地域のみなさんの反応は、いかがですか。

地域のみなさんには、いつでも活動に参加してください、とオープンにしています。今、職員ではない人たちも活動に参加していて、中には、私の大学の同級生もいます。練習は事業所に通うみなさんの昼の時間と、社会人が集まる夜の時間との二部構成にしています。

そもそもの最初のコンセプトは、

地域のみなさんと一緒につくる劇団というものでした。演劇をやりたい人に手を挙げてもらって、一緒につくる場にしたいだったので、事業所の外から入ってくる人が増えて非常に手応えを感じています。

やりたい人と一緒につくり上げていくことが、お互いの刺激になっていく感じですね。障がいのある人もない人も、悩みや問題を抱えています。それがあたるみりの活動でシェアされたり、励みになったりしている。解決はしなくても、「あの人も同じ悩みがある」と気持ちも軽くなったり、「仕事をしている人はこういう考え方をするんだ」と斬新な刺激をもらえる。参加しているみなさんにとって役者としてだけではなくて、人間としての成長につながっているのかなと思います。

たとえば、活動に参加して最初のうちは「なんでこんなに頑張らなきゃいけないだろう」と思う人が多い。でも、しだいに、練習を休んでしまった後日、「○さんも仕事が忙しいのに練習に来ていたんですね。自分は疲れて眠いからと休んでしまったけれど、今度は前日に早く寝て体調を整えるようにします」などと言ったりしたこともありました。

——演劇にはみなさんを惹きつけていく、マジックがあるみたいですね。

公演が終わっても、「もういいや」とはならないのですね。公演後に、「ここはこう演じるべきだった」「あと何回か稽古にあればよかった」「油断して手を抜いちゃった」と、参加したみなさんから感想が出てくるんですよ。不完全燃焼感があることが演劇を続ける気持ちにさせるのかなと思います。

もう一つ、公演後の達成感の大きさがありません。悩んだり泣いたりしながら練習を重ねてきて、本番を迎え、拍手をもらうと「ほめてもらえた」「みんなと一緒にやり遂げた」という気持ち。達成感というプラスの部分と、反省点のマイナス部分と、両方あって、またやりたいという気持ちが続くのかなと。それと、次の脚本や自分の役を考えるのも楽しみなようですね。

——これからのあたるみりのについて、お聞かせください。

「おもしろい劇団があるぞ」という感じで広がっていくのが一番の理想です。福祉施設が主催しているということではなくて、変わった劇団



「あたるみり総監督」、梶田さん。

があつて、いろんな人が混じつて面白いよと。誰が主体なのかわからないくらいの劇団にしたい（笑）。遊びや趣味であっても、好きなことに真剣に打ち込む経験が人間を育てると思います。しかし最近、家族の人数が少ないし、みんなで何かをやり遂げる体験も少ないという気がします。部活みたいな場では、みんな頑張ったり、悔しい思いをしたりと、いろいろなことがありますよね。そういう人たちは別の状況においても、頑張りどころを知ってはいないかな。劇団形式でやることで、そこに近い経験を私たちはしているのではないかと思います。

だから、もつと一般の人にも参加してほしい。かわり方はいかようにもなります。練習だけ出るとい



公演終了後の集合写真。舞台をみんなで作り上げた達成感は大い。

てあとるみのり

てあとるみのりは地域活動支援センターⅢ型ハートランドみのり(運営は社会福祉法人豊芯会)の演劇グループ。脚本、舞台、衣装など全て自分たちで制作して行う公演は年2回、2012年9月で第8回を数える。公演当日は普段の活動室が舞台に変わり観客で大入り満員となる。脚本、演出、舞台監督を担当する梶田佳生さんは精神保健福祉士。高校、大学、現在に至るまで演劇に携わる。日本大学芸術学部演劇学科卒。

<http://theatreminori.blog28.fc2.com/>

てあとるみのり公演のご案内

第9回公演「THE STAGE」2013年2月18日(月) 13:30開演 入場無料
会場：あうるすぽっと(豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル 2F)
※豊島区精神障害者共同作業所連合会主催(後援:豊島区)第15回文化交流会 ゲスト公演

第10回公演「そこにあるもの」2013年3月21日(木)~24日(日) 要チケット
会場：ハートランドみのり(豊島区南大塚3-30-2 今井ビル1階)

◎問い合わせ先:

TEL: 03-5928-1920 (ハートランドみのり・すぎた)

E-mail: ck3_minori@yahoo.co.jp

人もいますし。そんな人も休んだ人の代役をしているうちに、「ちょっとでも本番に出たいんですけど」と言い出したり、公演の手伝いで来て、みんながワーツと盛り上がっている様子を見て、「もうちょっと前からかわりたいな」とか言ってくれるんですよ。そうしたらしめたもので(笑)。

高校野球では甲子園に行くと、卒

業生でもないのに地元の人が自慢しますよね。てあとるみのりもそうになりたい……(笑)。

——てあとるみのりは、誰でも参加できる場が用意されていて、地域の人たちが手挙げ方式でかわれる仕掛けなのですね。今日はありがとうございました。

取材／朝比奈ゆり